事例No.	1247
公表年度	R2
団体の属性	町村
団体名	青森県五戸町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・副業・兼業活用

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

行政・企業・コーディネート機関の共創によるモデルプロジェクト創出事業（ごのへみらいプロジェクト）

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(3) 青森県五戸町

事業名：行政・企業・コーディネート機関の共創によるモデルプロジェクト創出事業（ごのへみらいプロジェクト）

取組の概要

行政・プロジェクト主体・コーディネート機関の 3 者により地域課題解決に資する 4 つのプロジェクトを設計し、関係人口プラットフォームの活用等により熱量の高い外部人材の参画を促進。単発で終わらない持続する関係構築に努めた。また、取組の内容や移住定住促進・関係人口創出拡大の動きなどについて「プロセス共有会」を通じて町民に周知。

主な成果

地域の古民家の活用や特産品の PR などに係る 4 プロジェクトを組成し、3 件の継続実施の見込みが立っている。「なんばんみそ」を活用した新しいレシピが 40 件開発され、学校給食での採用も決定した。プロジェクトを横断して外部人材同士が繋がることで、新しいプロジェクトができる動きも見えてきた。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・人口減少（特に 20 代女性）・労働力人口の減少に伴い、地域の企業・団体において、人材不足・担い手不足が生じており、また町民のシビックプライドが低い状態にある。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・地域側と外部人材が良好な関係性を継続していくことで、地域内の人材不足・担い手不足等の地域課題が外部人材のスキル・ノウハウの提供を得ながら解消されるとともに、地域内の熱意のある人材と外部人材との関わりが増加していくことにより、関わる町民のシビックプライドの醸成が図られ、住み続けたいと感じる町になる。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

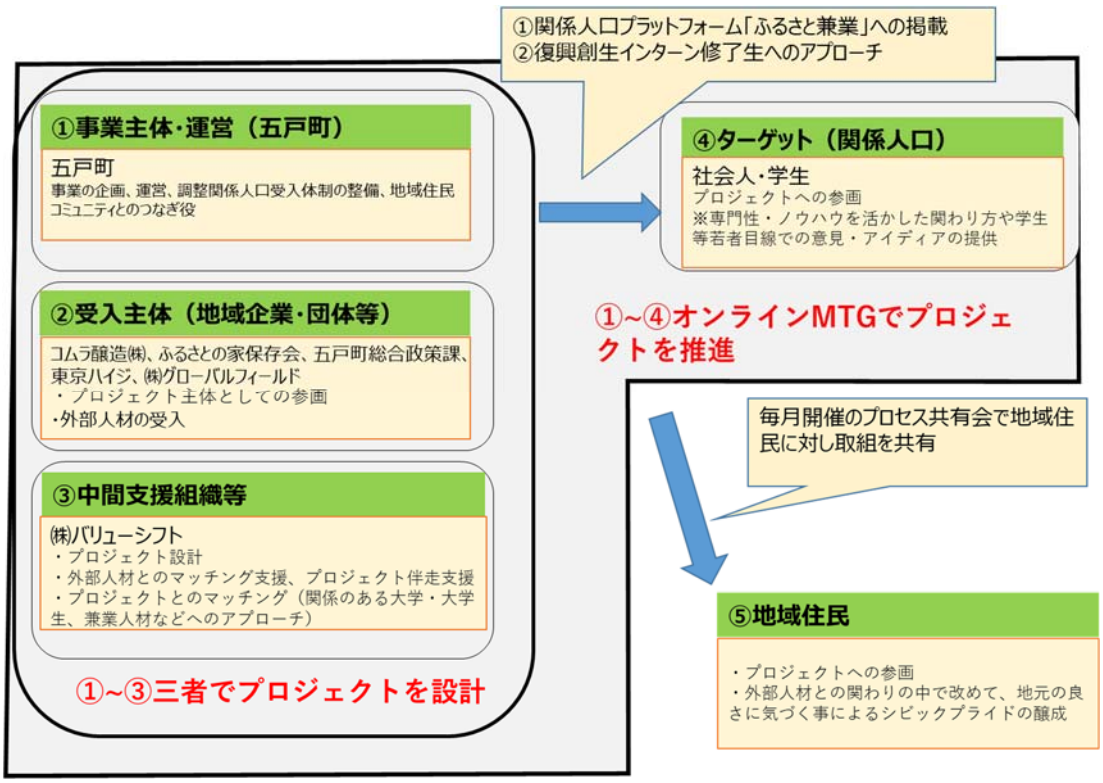
・五戸町に関心がある町内外の人を集め、町の課題や未来について語り合う「ごのへみらい会議」、地域の手工芸である「南部菱刺し」や陶芸「倉石焼」といった五戸町に根付く工芸体験と先輩移住者との交流を組み合わせた「冬のごのへ暮らし体験会」を開催。過去２年間で約 150 名が町内外から参加。

4) 今年度事業の目標

目標	・地域側と外部人材の適切なマッチングの実施により、３プロジェクト組成し、プロジェクトを推進しながら、翌年度以降の横展開による事業実施の見込みを立たせる。
成果指標	①今年度プロジェクト組成数 ②翌年度以降の継続・新規事業実施の見込み数
目標値 （基準値）	①３件（基準値：０件（2020 年６月）） ②３件（基準値：０件（2020 年６月））

②事業実施体制

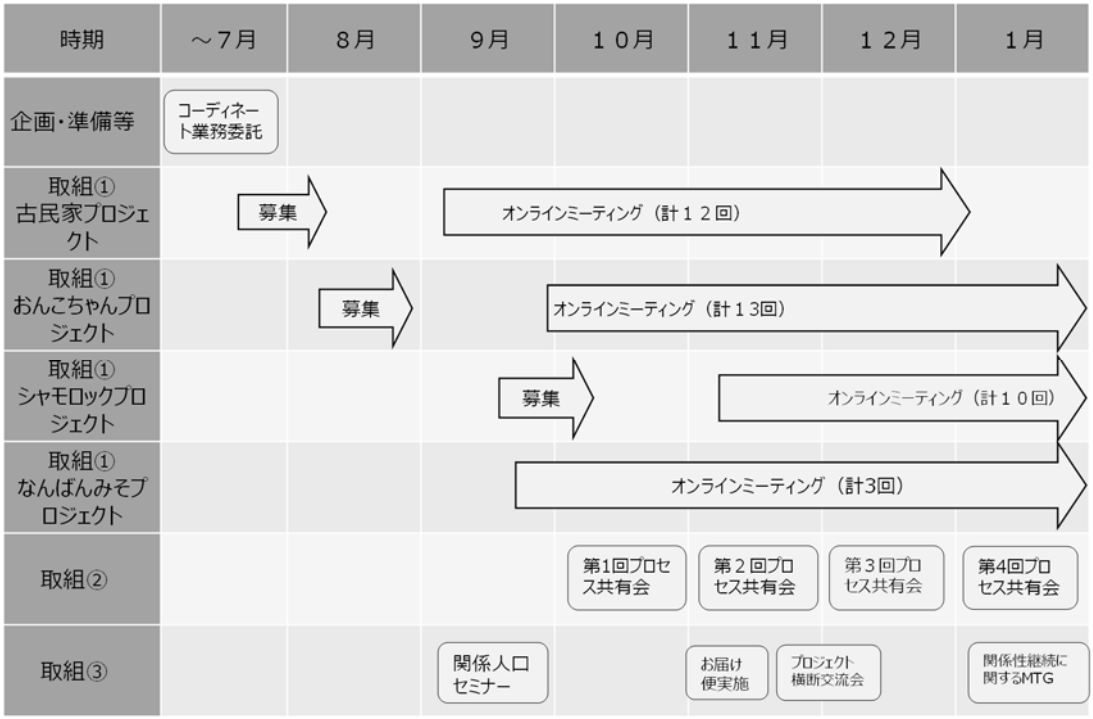
区分	団体・組織名称	役割
行政	五戸町総合政策課	事業の企画、運営、調整、関係人口受入体制の整備、地域住民コミュニティとのつなぎ役
中間支援組織	㈱バリューシフト	プロジェクト設計、外部人材とのマッチング支援、プロジェクト伴走支援
地元受入主体	コムラ醸造㈱	プロジェクト主体（なんばんみそプロジェクト）
地元受入主体	ふるさとの家保存会	プロジェクト主体（古民家プロジェクト）
地元受入主体	五戸町総合政策課	プロジェクト主体（おんこちゃんプロジェクト）
地元受入主体	東京ハイジ	プロジェクト主体（おんこちゃんプロジェクト）
地元受入主体	㈱グローバルフィールド	プロジェクト主体（シャモロックプロジェクト）



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
プロボノ（社会人）	関係人口プラットフォーム「ふるさと兼業」を活用したアプローチ	・ それぞれのスキル・ノウハウを活かしたプロジェクトへの参画 ・ 地域住民への取組の共有、交流
プロボノ（大学生）	復興・創生インターン参加学生へアプローチ	・ 若い女性目線での取組への参画 ・ 地域住民への取組の共有、交流

④事業スケジュール





⑤取組の内容

【取組1　ごのへみらいプロジェクトの推進】

・行政、プロジェクト主体、コーディネート機関の３者により、地域課題解決に資するプロジェクトを４プロジェクト設計し、関係人口プラットフォーム「ふるさと兼業」やコーディネート機関の繋がり等を活用しながらプロジェクトに参画する熱量の高い外部人材（社会人・大学生）を募集。合計 33 名がエントリーし、うち 23 名がプロジェクトへ参画した。

・プロジェクトごとに Zoom 等を活用し、コーディネート機関のサポートのもと、１．５～２時間程度のオンラインミーティングを定期的に実施しながらプロジェクトを推進した。

古民家プロジェクト （プロジェクト主体：ふるさとの家保存会（地域の任意団体））	子どもを連れて安心して遊べる屋内施設が少ないという課題解決のために、倉石地区の「ふるさとの家」の利活用と PR を考えるため、利用者のアンケート分析、公式 LINE 等による情報発信、イベント内容の検討等を行った。  
おんこちゃんプロジェクト （プロジェクト主体：東京ハイジ×五戸町）	町の PR キャラクター「五戸のおんこちゃん」の産みの親・東京ハイジ氏と総合政策課とでキャラクターを活用した町の魅力発信戦略を一緒に考え、アクションプラン策定に取り組むプロジェクトを設計し、プロボノの強みを活かした事業プランを作成した。 
シャモロックプロジェクト （プロジェクト主体:㈱グローバルフィールド）	青森シャモロック（鶏肉）のコアファンを起点としてファン同士のつながりを作り、「コミュニティの力」で青森シャモロックや五戸町を盛り上げる「ファンコミュニティ」を検討するプロジェクトを設計し、顧客へのインタビューを実施した。
なんばんみそプロジェクト （プロジェクト主体：コムラ醸造㈱）	コーディネート機関が実施している復興・創生インターンに参画した県外の大学の管理栄養学科などに所属する学生に、地域の郷土食である「なんばんみそ」を提供し、若い世代の視点を生かしたなんばんみその新しい食べ方を開発するプロジェクトを設計。新しいレシピ 40 件を開発するとともに、町の学校給食での採用も決定した。  

【取組2　地域住民等への周知の取組（プロセス共有会の開催）】

・「ごのへみらいプロジェクト」の内容や五戸町の移住定住促進・関係人口創出拡大の動きを町民に知ってもらい、関わってもらうことを目的に、「プロセス共有会」を開催した（月１回・計４回）。参加人数は合計 130 人以上。

・受入側・参画側双方の視点からプロジェクトの話をして現場感を伝える一方、外部講師も交えて他地域の事例や国内の働き方のトレンドなどについてのレクチャーも入れながら、多様な人材と関わりの中で広がる五戸の可能性を感じてもらえる場となるように工夫して実施した。

第１回	①五戸町の移住定住・関係人口を拡大する取り組みについて ②「ごのへみらいプロジェクト」について（プロジェクト設計～募集～マッチングまでの流れについての説明） ③進行中のプロジェクト紹介 ④大学生が開発したコムラのなんばんみそレシピ試食会
第２回	①五戸町の移住定住・関係人口を拡大する取り組みについて ②「ごのへみらいプロジェクト」について（プロジェクト設計～募集～マッチングまでの流れの説明、進行中のプロジェクト紹介） ④参画者、受入企業からのコメント ⑤大学生が開発したコムラのなんばんみそレシピ試食会－ミートソース、なんばんみそ餃子
第３回	①五戸町の移住定住・関係人口を拡大する取り組みについて ②「ごのへみらいプロジェクト」の紹介 ③関係人口事例紹介 眞下美紀子氏（北三陸ファクトリー取締役　一般社団法人 fumoto 理事／洋野町出身在住、2016 年 U ターン） ④五戸町における関係人口創出・拡大の可能性と課題 南田修司氏（NPO 法人 G-net 代表理事／ふるさと兼業事務局）
第４回	①五戸町の移住定住・関係人口を創出・拡大する取り組みについて ②「ごのへみらいプロジェクト」概要説明 ③各プロジェクトの報告 ・築 200 年の古民家を子どもの遊び場に変えるプロジェクト ・「五戸のおんこちゃん」を活用した町の魅力発信プロジェクト ・青森シャモロックのファン拡大プロジェクト ・なんばんみその新しい食べ方開発プロジェクト ④青森県内他地域の関係人口創出拡大事業の事例 NPO 法人プラットフォームあおもり理事長　米田大吉氏 ⑤全体講評 NPO 法人 G-net 代表　南田修司氏（ふるさと兼業事務局）







【取組3　関係性継続に向けた取組】

・次年度以降の横展開や、今年度創出した関係人口との関係性を持続させるための仕組みを構築するための各種取組を実施した。

関係人口セミナー開催	複業・兼業などの新しい働き方に関心のある方、地域・企業の「担い手」としての外部人材の活用に関心のある方を対象にした関係人口セミナーを開催した。
プロジェクト終了後の関係性継続に係るミーティング	各プロジェクトの最終ミーティングにおいて、プロジェクトに対する参画者・受入側双方のニーズを引き出し、今後どういう関わりを続けていくのがいいか、話し合う時間を設けた。 事業終了後も、お互いが納得感を持って関わりを継続していけるように、双方のニーズを言語化し、違和感のない状態にしたうえで、今後の進め方について検討した。
slack の継続利用	本事業で準備した slack については、今後も継続して参画者同士のコミュニケーションツールとして活用していくこととした。
お届け便の実施	コロナ禍において現地訪問が難しい状況下でも五戸町について体感してもらう手段として、受入企業を中心とした五戸町の名産品や、八戸地域の名産品、パンフレット類をセットにした「お届け便」を送付。参画した社会人、大学生全員に同じものを送付し食べてもらうことで、離れていても共通体験ができる機会を創出した。
プロジェクト横断 meetup（オンライン交流会）の開催	本事業で組成した４つのプロジェクトに参画している方々を対象にしたオンライン交流会を、11 月 27 日（金）19 時～21 時で開催。参加者全体で話せる交流の時間とした。







⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		取組①：関係人口構築の取組	取組②：地域住民等への周知の取組	取組③：関係性継続に向けた取組
取組の結果（アウトプット）		４プロジェクトに２３名の外部人材が参画。地域の受入主体と協働でプロジェクトを推進。	左記「取組１」をより多くの町民等に知ってもらい、関わってもらうためのプロセス共有会を開催。 月1回のペースで計4回実施、延べ１３０名以上が参加	次年度以降の横展開等を見据え、今年度関係性を構築した関係人口との関係性を持続させるための取組を実施。
取組の成果（アウトカム）	関係の創出・深化に関する成果	プロジェクトを推進する中で受入主体と外部人材に良好な関係性が構築された。	今年度実施したプロジェクトの内容・成果を町民等へ知ってもらい、関心を持ってもらうことができた。	各プロジェクトごとに受入主体と外部人材と話し合いにより、今後の関わり方について共有しながら納得感を持って関われる体制ができた。
	地域にもたらされた成果	これまで解決が図れらなかった地域課題について、外部人材と良好な関係性の中で解決に向けた具体的なアクションを実行できた。	今回の取組により、自分も何か地域のためにできることをやってみたいという気持ちを持つ人が出てきたことがアンケート結果からわかった。	来年度以降も外部人材と関係性を継続することにより、より発展的な取組の実施が期待できる。
今年度事業の目標達成状況		翌年度以降の横展開による事業実施の見込みが立ち、３プロジェクト組成する。 ①翌年度以降の継続・新規事業実施の見込み数：３件（実績：３件） ②今年度プロジェクト組成数：３件（実績：４件）		

2) 本事業全体を通じた成果

・事業終了後、外部人材 23 名と受入主体６名に対してアンケート調査を実施したところ、外部人材からは 14 名、受入主体からは６名回答があった。外部人材への「今後も五戸町と関わり続けたいか」という質問では、14 名全員が「関わり続けたい」と回答。その理由には「今回のプロジェクトを通して五戸町に行ってみたい、関わりたいと強く思ったから。」等があげられた。

・一方で地域(受入主体) 側への「外部人材と一緒にプロジェクトを進めることは、五戸町に対するシビックプライド(愛着、誇り、郷土愛)の醸成に繋がると思いますか」という質問では、６名全員が「繋がる」と回答しており、その理由には「地域を知らない人に、『五戸町のここがすごい。』と言ってもらえるだけで単純に嬉しかった。」等があげられた。

・また、毎月のプロセス共有会の際に、地域住民等を対象に実施したアンケートにおいても、今回の取組を通して「自分も地域のためにできることを探してみたい」、「これからも関わりたいと思う気持ちが強くなりました。」等の意見があった。さらに今回地域外の方をターゲットにして募集したプロジェクトに地域内の人が応募して参画意向を示すなど想定外の成果があり、地域住民の地域に対する意識の高まりを感じる事ができた。

・これらの結果を踏まえると、本事業により外部人材・地域側双方に価値がある関係性の構築がなされ、更にその動きを地域住民等と共有したことでシビックプライドの醸成に繋がっていることがうかがえる。

・実際に各プロジェクト主体を中心として外部人材との今後の関わり方も共有されているため、今後は各プロジェクトの受入主体を中心として外部人材との関係性を継続させるとともに、町全体で関係人口に関する取組を進めていくための企画・調整部分を行政として実施する見通しである。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・①プロジェクトを３つ以上組成すること、②翌年度以降の横展開による事業実施の見込みが立つことを目標に設定し、結果、４プロジェクト組成して翌年度以降の事業継続の見込みが立ったほか、プロジェクトを横断し外部人材同士が繋がることによる新規プロジェクトの動きも見られた。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・外部人材の受入については、行政、コーディネート機関、受入主体の３者が役割を分担して進めたが、外部人材受入に関するノウハウや経験を有するコーディネート機関が担う役割が大きかった。また外部人材を受け入れる際の受入主体の熱量がプロジェクトの成否に大きく影響した。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・プロジェクトに共感する熱量の高い外部人材をターゲットに、関係人口プラットフォーム「ふるさと兼業」等を活用して募集した。

・マッチングは、コーディネート機関による面接等が功を奏し概ね成功したが、途中でプロジェクト参画をやめた方へのフォロー等の課題が残った。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・取組１「ごのへみらいプロジェクトの推進」では、当初からほぼオンラインでの事業実施を予定しており、外部人材からは、コロナが収束したあとに、五戸町に訪れたいという声が多数あった。取組２「プロセス共有会の実施」により、地域内に今回の事業を共有することができた。外部人材とのコロナ収束後のリアルな交流等も今後検討予定である。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・各プロジェクト主体が外部人材と今後の関わり方について相談しながら継続する方向性を共有することができた。今後は各プロジェクト主体と外部人材との関係継続を、行政がサポートし、地域外の人が遠方にいながら地域に関われる場として取組を継続していきたい。

2) 地域における関係人口への期待について

・プロセス共有会において、「関係人口」や「プロボノ」の考え方や本事業の内容が、町民にもある程度共有された印象がある。参加者アンケートの回答等では、外部人材への期待とともに、地域住民が主体となることの重要性に関する意見が多数あった。今後も熱量の高い地域側の人材と外部人材の交流により、お互いのニーズを満たせる関係性の構築を目指す。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・外部人材と繋がる際には、想いや熱量のある地域側の人材が不可欠であり、そうした人材が主体的に行動して外部人材と繋がることで地域に良い影響を与えていくという気づきが得られた。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・コーディネート後に、受入主体と外部人材との関係を継続させることが、持続的な取組になると感じた。地域内にそうした受入主体が増え、それぞれが繋がることで、町全体で関係人口の受入体制の構築を目指す。